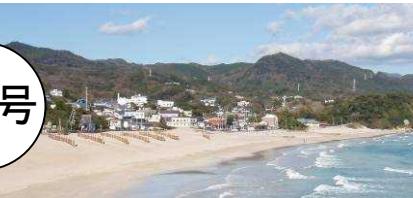


しら はま 白浜 141号



令和8年2月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

伊豆東岸定置網 令和8年上半期漁海況予報

当場は令和8年上半期（1～6月）の相模湾の海況及び伊豆半島東岸定置網における主要魚種の大きさ・来遊量を、神奈川県水産技術センターと協議して予測しました（右表）。

黒潮は2月までC型（八丈島の南を通過し、流路の南端が北緯32度以北）、その後はN型（八丈島の北を通過し、流路の南端が北緯33度以北）基調で推移し、水温は低め～平年並で推移すると予測しました。

主要魚種の来遊量は資源状態や昨年下半期の漁獲動向などを元に予測を行っており、定置漁業者が期待するブリ来遊量は、近年の資源状態から前年を下回ると予測しました。また、マイワシは黒潮大蛇行が終息し、伊豆半島周辺に来遊しやすい海況になりましたが、資源量が低調であることから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測しました。

漁業士認定式の開催

1月14日、県の指導漁業士、青年漁業士等の認定式が行われました。伊豆地域からは伊豆漁協稻取支所所属の富岡さんが出席し、指導漁業士として県知事から認定を受けました。

今後、地域の中核的な漁業者となる富岡さんのご活躍を期待するとともに、当場としても漁業士会活動を継続支援していきたいと思います。



写真 指導漁業士※に認定された富岡さん(後列左)

※解説：漁業士とは地域の中核となる漁業者を県が認定する制度です。

先進的経営を行いながら、若手漁業者等の指導育成に積極的に参画している方を認定する「指導漁業士」と、漁業者グループ等に積極的に参画し今後も中心的な活動を見込まれる方を認定する「青年漁業士」があります。

海況	黒潮	2月までC型で推移し、その後はN型基調で推移する。
	水温	2月までのC型流路時は「低め」から「平年並み」、N型基調時は「やや低め」から「平年並み」で推移し、黒潮流路の変動によって顕著な暖水波及が起こったときは、「やや高め」から「極めて高め」となる。 ＊平年：1991～2024年の平均水温
マアジ	大きさ	尾叉長20cm前後の1歳魚主体で、5月頃から5歳魚（じんだ）も漁獲される。
	来遊量	前年を下回る。
ブリ	大きさ	銘柄ぶり・わらさ主体。
	来遊量	前年を下回る。
マサバ	大きさ	尾叉長30cm以上主体。
	来遊量	低水準。
ゴマサバ	大きさ	尾叉長30cm以上主体。
	来遊量	低水準ながら前年を上回る。
マイワシ	大きさ	産卵親魚（被鱗体長20cm前後）主体。
	来遊量	前年並～下回る。
カタクチイワシ	大きさ	成魚及び未成魚（被鱗体長10cm以上）。
	来遊量	前年を上回る。

「海底湧水」で沿岸環境改善の取組

海底湧水とは、海底から湧き出る地下水のことと、豊富な栄養塩が特徴です。また、湧出量が増加すれば、海底の水循環が改善し、ヘドロ等の解消も期待できます。海藻群落が激減してしまった西伊豆町仁科では、伊豆漁協仁科支所による、海底湧水を人為的に増やして海藻に好適な環境を創出する取組を進めています。

1月21日に、同漁協が仁科漁港内で水中ポンプを用いた穴掘り作業（直径3～5cm、深さ1～1.5m）を行いました。掘った穴は十数個と多くはありませんでしたが、慢性的に濁っていた船だまりの海水が透き通り、海底環境改善効果が早くも現れました。今後も取組を継続することで、海藻群落が復活することを期待します。

穴掘り作業
の様子→



2月の予定 ●潜水調査（菖蒲沢、白浜、仁科） ●一般研究評価会（3日） ●漁業士会総会（6日） ●磯根資源・藻場研究会（16日） ●一都三県キンメダイ漁業者実践協議会（19日） ●技術連絡協議会（27日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。